

この冊子を手にとられたあなたへ

今、あなたが手にとったこの冊子は、令和3（2021）年から向こう5年間の、右京区という京都市の行政区の基本計画です。

最後まで読んでいただけたら、あなたが想像している“自治体の基本計画”とは、違う印象を持たれると思います。

この基本計画は、右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」を主語にしながら、まちやくらしのことを考えていくための、「手引き」のような作りになっています。

「みんなでつくる右京」を片手に、自分の未来のことを考えてみませんか。

そして、今できることを考えてみませんか。

あなたの心に、明日を変えていくための種火や呼び水が生まれることを願っています。





参加と協働による
持続可能なまちづくりを

京都市長 門川 大作

「市民・区民が主役のまちづくり」

私は市長就任以来、この方針を軸に市政に邁進してまいりました。そして、未曾有のコロナ禍の中、改めてこの言葉の大切さを噛み締めています。

コロナ危機と、収支不均衡の構造が続いてきたことによる財政危機。本市は現在、そんな“2つの危機”に直面しています。同時に、人口減少や地球温暖化など様々な社会課題にも立ち向かっているところです。区民の皆様への心強いお取組の一つ一つが、困難を乗り越え、より良い社会を目指すための大きな力となります。

この度策定した「みんなでつくる右京～京都市右京区基本計画～」は、右京区の明るい明日への礎となるもの。この基本計画を基に、それぞれの地域の魅力やすばらしい「地域力」、「文化力」を、暮らしの豊かさとまちの活力につなげていきます。ひいてはそれが京都市全体の未来を創ります。そして、オール京都で共々に、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、本計画の策定に御協力いただいた方々、貴重な御意見を寄せてくださった全ての皆様に、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。



「わたし」から始まる
わがまち右京の未来

右京区長 北川 洋一

令和3（2021）年4月1日に、右京区は区制90周年を迎えました。

そして、3期目となる京都市右京区基本計画「みんなでつくる右京」がスタートします。

施策や取組が列挙されたこれまでの基本計画のイメージでこの冊子を読み進めていただくと、「あれ？」と思われるかもしれません。

まちはそこでくらす人々の営みのための器です。人々の営みがあるからこそ、それに適したまちの姿を語るができます。そして、本計画は、この人々の営み、すなわち、右京でくらす区民の皆様一人ひとりの日々のくらしと、その中での思いや行動に焦点を当てたものとなっています。

この冊子を手にとられたことが契機となって、一人でも多くの区民の皆様が、わがまち右京で未来にどのようなくらしをしたいか、そのためまちはどのような姿であってほしいか、そして実現のため自らが果たせる役割についても、改めて思いを巡らせていただければ幸いです。明るい未来はきっとそこから始まります。

本計画の策定にむけて実施した「右京かがやきミライ会議」参加者の皆様、熱心な御議論をいただいた「次期京都市右京区基本計画編集会議」の皆様をはじめ、全てのお力添えをいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

第1章

実現したい未来のための「右京区基本計画」

- ▶ 「わたし」が、まちやくらしのことを考え行動するための右京区基本計画 ……7
- ▶ 右京区基本計画は、右京区のまちづくりの進展と密接に関わっています ……9
- ▶ 右京区のまちづくりの歩みから紐解く、未来のために重要なこと ……11
- ▶ 右京区の将来ビジョン ……13

第2章

「わたしたち」が描く未来と実現のためのアクション

- ▶ 「わたし」にできること ……17
- ▶ 「わたし」から「わたしたち」へ ……18
- ▶ アクションを広げるために ……17～18

まず まちを「知る」ことから始める ……19

- 1 身近なくらしを振り返る ……20
- 2 くらしの変化をデータで見る ……23
- 3 今起こっている大きな潮流の変化に目を向ける ……25
- 4 生活・くらし目線で整理する ……26

次に わたしたちのまちやくらしの未来を描く ……27

いよいよ 未来の実現に向けたアクションを起こす ……33

第3章

「わたし」と「わたしたち」をつなぎ、支える、右京区役所や市役所のアクション

- ▶ 未来の実現に向けたアクション ……41
- ▶ 制度・仕組みの具体例 ……43

編集後記 ……45

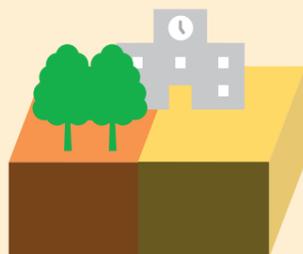
策定までのあゆみ ……46





実現したい未来のための 「右京区基本計画」

- ▶ 「わたし」が、まちや暮らしのことを考え行動するための右京区基本計画
- ▶ 右京区基本計画は、右京区のまちづくりの進展と密接に関わっています
- ▶ 右京区のまちづくりの歩みから紐解く、未来のために重要なこと
- ▶ 右京区の将来ビジョン



「わたし」が、まちやくらしのことを考え 行動するための右京区基本計画

「みんなでつくる右京～京都市右京区基本計画～」の役割

幸せな未来を思い描くための、新たな気付きを得るもの
何か行動しようと思ったときの、手引きとなるもの

まちの将来ビジョンを描き、その実現のためにやるべきことを掲げているのがこれまでの基本計画のつくり方で、そこでは、基本計画に書かれたことがどれだけできたかが大事になってきます。

一方で、この「みんなでつくる右京～京都市右京区基本計画～」では、どれだけ多くの人が、「わたし」を主語に意識や行動を変えていくことができたかを目標にしています。皆さん一人ひとりがやるべきことを考え、取り組むことによって、5年後の右京区の未来が変わるからです。

そこで、右京区でくらす一人ひとりが幸せな未来を思い描き、行動するに当たっての「手引き」の役割を担い、また、一人ひとりが考え、話し合い、行動していくことでどんどんアップデート（更新）されていく、「生きている計画」となるようにまとめました。

第1章では、この基本計画の役割、策定に至るいきさつや右京区の将来ビジョンをお示ししています。

第2章では、この基本計画が担う「手引き」となる内容を整理しています。

そして、第3章では、皆さんの未来の実現に欠かせない、右京区役所や市役所の役割を記載しています。

「みんなでつくる右京～京都市右京区基本計画～」の特徴

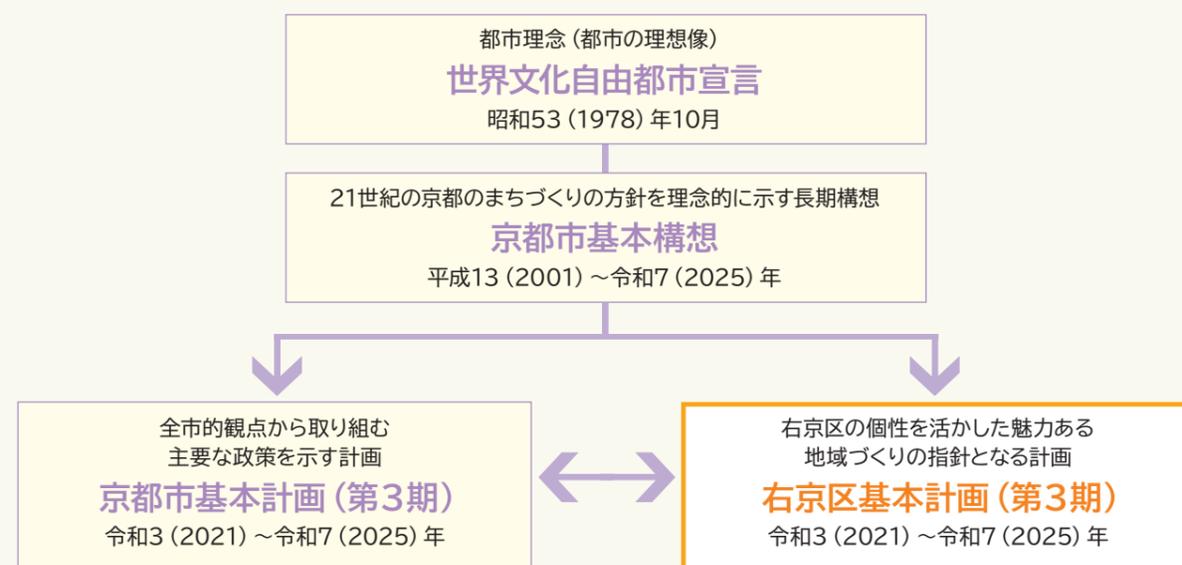
読み手にとって 「わたし」が主語になるように

行政も含めた、右京区に関わるすべての皆さんそれぞれにとっての未来を実現するための基本計画として、読み手一人ひとりが主語になるよう工夫しました。

読み手自ら考え、行動するための スタートラインとなり、未来の実現に向けた道筋を考えるヒントに

この基本計画は「完成図」ではありません。
皆さん一人ひとりが、スタートライン（出発点）や未来の実現に向けた行動の仕方をイメージし、考えるヒントになるよう、とりまとめました。

右京区基本計画と京都市基本計画は、「互いに補完し合う」関係にあります



市民一人ひとりが自分とまちとの関わりを意識し、自分にできることを考え、行動する。そうした小さなアクションの積み重ねが、世の中を動かしていく大きな力になります。この「地域力」を高めていくための道筋を示すのが、「右京区基本計画」です。

相互補完の関係にある「京都市基本計画」は、様々な主体と行政が協働し、市民の視点から目指すべき「京都の未来像」に加え、行政改革などの視点も盛り込み、全市的観点から取り組む主要な政策を示すものです。

まちの未来のために、誰が誰と、どう進めていく？

京都市では、京都のグランドビジョンを描いた「京都市基本構想」において、「信頼」を基礎に社会の再構築を目指すというまちづくりの方針を理念的に示し、その中で、市民参加によるまちづくりの推進等を掲げています。

右京区基本計画と京都市基本計画との関係は？

京都市では、京都市基本構想を具体化するため、一人ひとりが実現したい未来を思い描き、その実現に向けて行動するための道筋を示す「右京区基本計画」と、全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」をそれぞれ策定し、2つの計画を相互に補完し合う関係として位置付けています。

右京区基本計画は、 右京区のまちづくりの 進展と密接に関わって います

第1期
右京来夢らいと計画21
平成 13(2001)～平成 22(2010)年

道路や公園、福祉施設など、都市としての基盤整備がまだ過渡期の時代でした。そうした中、地下鉄東西線の延伸に伴う太秦天神川駅周辺の拠点整備が基本計画にも位置付けられ、実現につながりました。

第2期
右京かがやきプラン
平成 23(2011)～令和 2(2020)年度

多様なまちづくりの担い手による自主的な活動が広がってきた時代でした。そうした中、これらの活動に対する助成の充実や、区民や事業者、大学など多様な主体が連携・協力するための仕組みの構築などが基本計画にも位置付けられ、それが実行されることで、まちづくり活動の担い手がさらに広がりました。

こうして、時代の流れに応じて、区民のくらしにとって必要な施策を位置付け、その実現を目指す指針となったのが、基本計画です。

では、これから5年後の右京区は、どんな未来を描けばよいでしょうか。

その実現のためには何が必要でしょうか。

第3期
みんなでつくる右京
令和 3(2021)～令和 7(2025)年

どんな時代になっても、くらしの中で直面する課題がなくなることはありません。

「多様な価値観の共存、多様な生き方・くらし方ができる社会が十分に実現していない」という課題を例に考えてみましょう。

この課題に向き合い、実現に向けた取組を進めていく中で、今まで一部の人の問題であるとして、あまり知られていなかったことが浮き彫りになりました。

さらに、これまで支え合いやつながりづくりの原点であった地域社会内での人間関係の薄れや、自治活動の担い手確保の難しさなど、新しい課題が見えてきました。

このように、ある課題への対応は、新たな課題の掘り起こしにもつながります。

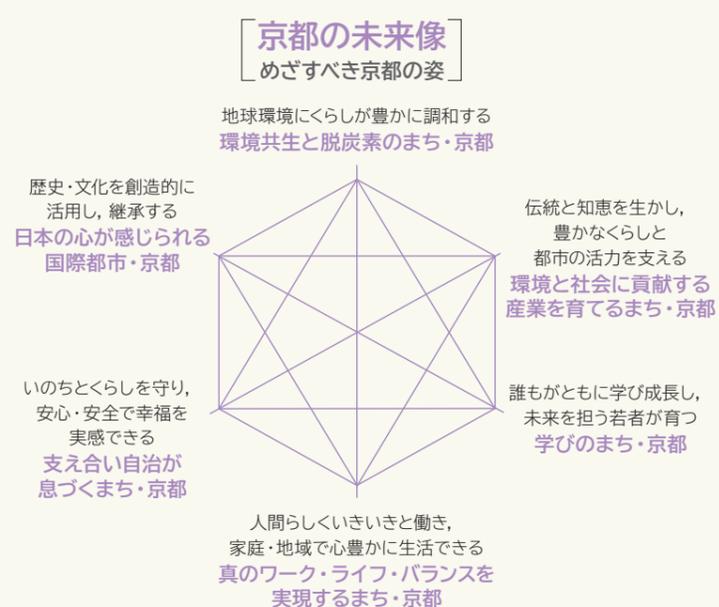
また、人口減少の本格化や地球温暖化の加速、新型コロナウイルス感染症の拡大といった、社会全体で乗り越えなければならない難しい問題にも直面する一方で、その解決の担い手として先頭に立つはずの京都市は、深刻な財政難（※12ページ参照）の状況にあります。

「これは市民がやること」「行政が考えるべきこと」、そういった単純な役割分担の考え方の先には、明るい未来はもう見えません。「自分に何ができるのか」。一人ひとりが、自分自身のまちやくらしの未来のことを、本当に、真剣に考えなければいけないときがやっています。

今、一人でも多くの人が課題に「自分ごと」として関わること、解決のために協力し合うことが、明るい未来の実現のために重要であると考えられます。



京都市基本計画



重点戦略	
未来像相互の関連性に着目しながら、複数の行政分野を融合し、とくに優先的に取り組むべき事項	
多様な文化を創造・発信する 「世界の文化首都・京都戦略」	
都市環境と価値観の転換を図る 「脱炭素・自然共生・循環型まちづくり戦略」	
京都ならではのくらし文化が広がる 「担い手成長支援戦略」	
人生100年時代に対応する 「地域力・福祉力を高めて支え合うまちづくり戦略」	
いのちとくらしを守り、都市の活力を支える 「強靱なインフラ整備戦略」	
歩いて楽しい持続可能な都市を構築する 「土地・空間利用と都市機能配置戦略」	
京都の文化、知恵を生かした 「社会・経済価値創造戦略」	
市民生活の豊かさや文化の継承・創造につなげる 「観光の京都モデル構築・発信戦略」	

政策の体系	
総合的な政策体系を簡潔に示すとともに、分野別計画の基本となるもの	
生活化	<ul style="list-style-type: none"> 1 環境 2 人権・男女共同参画 3 市民生活とコミュニティ 4 市民生活の安全 5 文化 6 スポーツ 7 産業・商業 8 観光 9 農林業 10 大学 11 国際
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 12 子ども・若者支援 13 障害者福祉 14 地域福祉 15 健康長寿 16 保健衛生・医療 17 学校教育 18 生涯学習 19 危機管理・防災・減災 20 歩くまち 21 土地・空間利用と都市機能配置 22 景観 23 建築物 24 住宅 25 道と公園・緑 26 消防・救急 27 くらしの水
※各政策は相互に密接に関連するもので、政策番号は分野間の優先順位を示すものではない	
行政経営の大綱	<p>基本計画を進めていくための基盤となる行政経営の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 参加と協働による持続可能なまちづくりの推進 2 市民の豊かさを実現するための挑戦と改革の行財政運営 3 一層信頼される市役所づくりに向けた組織の改革と職員の育成
計画の推進	<ol style="list-style-type: none"> 1 計画に掲げた政策の推進 2 計画に掲げた政策の進捗管理 3 計画に掲げた政策の点検・今後の総合計画のあり方の検討 4 国、府、関係自治体との連携

右京区基本計画	
一人ひとりが実現したい未来を思い描き、その実現に向けて行動するための道筋を示す計画	
右京区の将来ビジョン	
くらす人たちの理想の姿	
一人ひとりの行動の手引き	
一人ひとりが実現したい未来やアクションを見つけるに当たって役に立つプロセスや考え方	
右京区役所等のアクション	
区民一人ひとりのアクションを支える制度や仕組み	

右京区のまちづくりの歩みから紐解く、 未来のために重要なこと

今回の基本計画の策定に当たり、まず、第2期の基本計画に掲げられた施策や地域の取組について、これまでの成果を検証しました。その中で、様々な社会課題、地域特有の課題も含めて、解決の鍵は「地域力」にあることを再認識することができました。住民が自ら住むまちに関心を持ち「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を持つこと、互いに協力し合いながら解決のために取り組むこと、そのことで培われる「地域力」をさらに向上させること、これらが、今後生じる新たな課題に対応していくために極めて重要です。

第2期の基本計画でも述べたように、右京区では、この10年でまちづくり活動の担い手が広がり、「地域力」は確実に高まっています。地縁のつながりだけではない市民活動が次々と生まれ、地域企業や大学等も、右京区のまちづくりに一層深く参画されるようになってきました。

右京区のまちづくりの歩みから「現在地」を確認したうえで、これからの「未来」を見据えることにより、これからは、この機運を「一部の人たち」から「区民一人ひとり」に広げていくことが、右京区にとっての大きな課題です。

非常に厳しい京都市財政 ～持続可能な行財政の確立に向けて～

財政が厳しい中でも充実した行政サービスを維持

市民一人当たりの市税収入が他都市より少ない中、高い水準の福祉・医療・教育・子育て支援・災害対策などを実施。その水準を維持するため、職員数の削減や事業の見直しなどの行財政改革を行うとともに、担税力の強化といった成長戦略の推進に取り組んできました。しかし、国からの地方交付税が大幅に削減され、収入が伸び悩む中、高齢化による社会福祉関連経費などの支出が増加。行財政改革の取組だけでは必要な財源を賄いきれなかったことから、将来の借金返済の積立金（公債償還基金）などを取り崩し、将来世代へ負担を先送りしている状態です。

- 具体的成果**
- ・保育所など待機児童が8年連続ゼロ
 - ・大雨への浸水対策済み面積割合が全国トップ水準（市91%、全国60%） など

今後の収支見通しと財政再生団体になる危機

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、市税収入の回復が見込めない中、社会福祉関連経費が増加する見込みです。歳入増加・歳出削減の取組を反映させない場合、毎年度の収支不足額が500～600億円まで拡大し、財政再生団体になると、急激かつ大幅な市民サービスの低下が避けられません。

- 影響（例）**
- ・国民健康保険料約3割値上げ
 - ・保育料約4割値上げ など

魅力あふれる京都を皆さんと共に未来へ！

コロナ禍と財政危機という2つの大きな困難に直面していますが、京都のまちをより素晴らしいものとして次の世代に繋いでいかなばなりません。もちろん、右京区においても同様です。このため、「行財政改革計画」（令和3（2021）年8月策定）に基づき、「挑戦」と「改革」を断行し、市民の皆様と共に、このまちの力を信じ、明るい今と未来を切り拓いていきます。

背景となる 社会経済情勢の変化

わたしたちのくらは、様々な社会的課題に直面しています。もうすでに顕在化しているもの、将来予測として長期的に見込まれるものなど多岐にわたりますが、いずれも市民と行政が力を合わせて乗り越えていかなければならない難しい問題ばかりです。

以下の4つは、特に注目すべき社会経済情勢の変化の一部をまとめたものです。ぜひ、自分とまちとの関わりについて考えてみてください。

人口減少の本格化

国の長期推計では、京都市の令和27（2045）年の人口は約130万人になると推計されており、少子化傾向の継続や高齢者の増加と単身化が進むと見込まれています。

また、人口構造の変化や地域社会における関係の希薄化等により、様々な分野における担い手不足やまちの活力低下、社会的孤立の増加が懸念されています。

このため、子育て世代の定住促進や働く場の確保等により、魅力や活力ある持続可能な都市の構築等を通じて、都市のレジリエンス（※）を高めていく必要があります。

※様々な危機からの回復力・復元力等、強靭性（しなやかな強さ）を指す。

地球温暖化の加速

地球温暖化が一因とされている海水面の上昇や台風等の異常気象が世界各地で増加し、そのため、災害による人命を脅かす危機や、熱中症や感染症などの健康被害、水や食料の不足などの深刻な影響が現れています。

先駆的に地球温暖化対策に取り組んできた京都市では、令和32（2050）年頃までに二酸化炭素排出量の「正味ゼロ」に向けて、市民、事業者、行政が一丸となって、温室効果ガス削減を進める緩和策と激甚化する災害等による被害の軽減・防止を図る適応策を進めていく必要があります。

グローバル化の進展

人・もの・資金・情報の流れが地球的規模で拡大し続け、世界各地間の相互依存が深まっています。あらゆる面でグローバル化が進んでいる中、新型コロナウイルス感染症が瞬く間に世界各地に広がり、医療・健康面のみならず、世界経済へも甚大な影響を及ぼしています。

「誰一人取り残さない」という理念のもと、社会・経済・環境の3側面について、すべての国が取り組むべき目標を示したSDGs（※）の達成に向けた取組が進められています。

※平成27（2015）年の国連サミットで採択された、令和12（2030）年までを期間とする国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットを定めたもの。

産業構造の転換と厳しい京都市財政

新型コロナウイルスの流行は、多分野の産業に大きな打撃を与えました。新しい生活スタイルに対応すること、ポストコロナ社会を見据え、AI等のデジタル技術を取り入れ、Society 5.0（※）の実現や働き方改革などの推進により、持続可能な経済を確立することが求められています。

また、京都市財政は危機的な状況にあり、歳入歳出両面からの改革に加え、機動的で効率的な行政組織の構築などを一層強力に進めていくことにより持続可能な行財政の確立を目指す必要があります。

※先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会。

以上のことを踏まえ、次のような
「右京区の将来ビジョン」をイメージしました

未来の右京区では、人々がこんな考え方や姿勢でくらしている

右京区の将来ビジョン

右京区でくらす一人ひとりが、「わたし」と「わたしたち」の幸せな未来を思い描き、その実現のために行動している。

そして、右京区では、誰もが、人と人とのつながりを持ちながら、自分らしく、心豊かにくらすことができている。

「多様性」を力に変えていく

一人ひとりが自分以外のことに興味を持ち、多様な個性や価値観の違いを互いに尊重しながら、その多様性をエネルギーに変えていく。

「くらしにくさ」を伸びしろにする

くらしの中の「不満」や「不便さ」を、みんなで話し合うきっかけにし、工夫をこらしたり、よい面を見つけながら解決していく。

「お互いさま」で支え合っていく

人と人がゆるやかにつながって、程よく甘えたりお節介し合いながら、日々の困りごとを解決していく。

「やってみよう」を応援する、チャレンジする

「やってみたい」や「地域・社会のためにやってみよう」という行動を、互いに支え合いながら、一人ひとりが積極的にチャレンジしていく。

今回の基本計画の策定プロセスにおいて、世代も業種も様々な人たちが集まり、実現したい未来について語り合ってきた中で、目指したい未来は一人ひとり違っていても、みんなで共有できそうな、軸になるものが見えてきました。

それを、右京区の将来ビジョンとつなぎ合わせて、これからの行動のもとになる考え方や姿勢として、この4つのキーワードで表現しました。

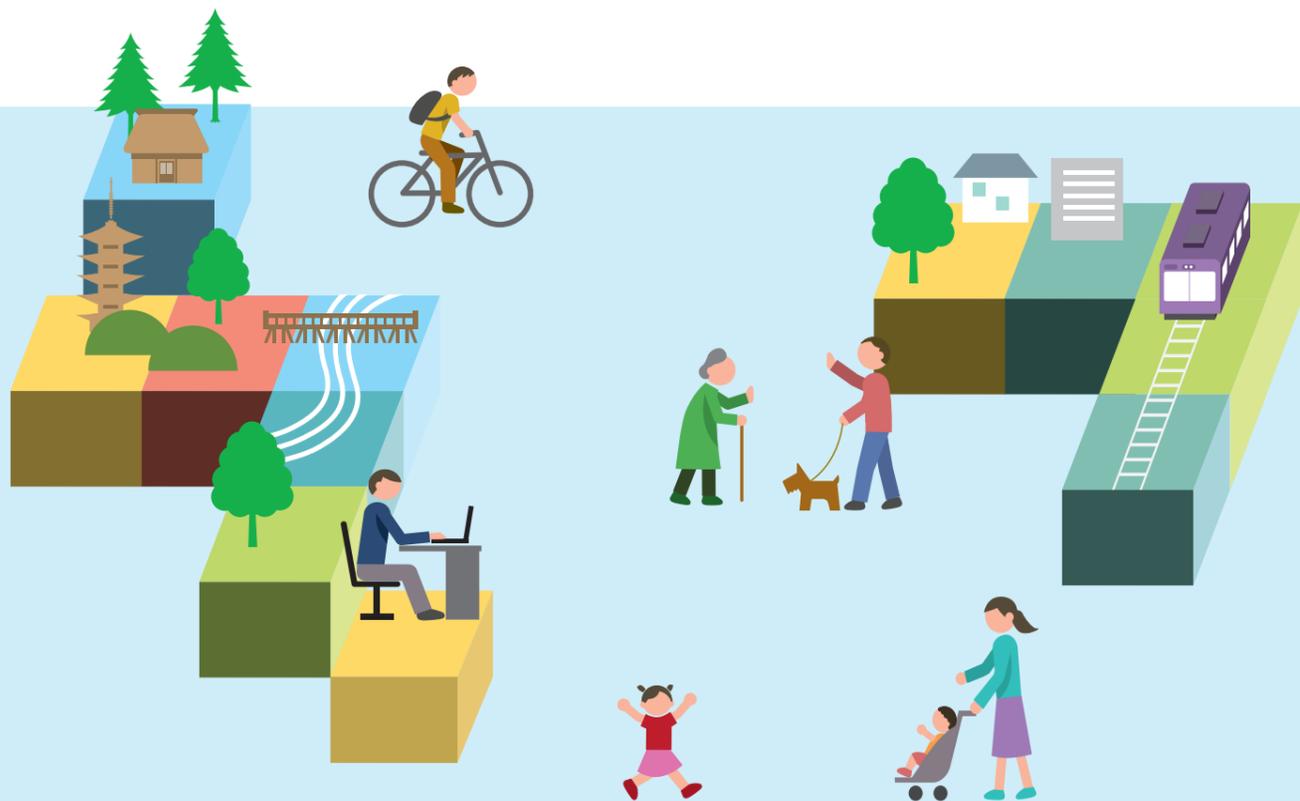
将来ビジョンの先にあるレジリエント・シティ/SDGs

あらゆる危機に対して、しなやかに力強く乗り越え、将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちのことを指す「レジリエント・シティ」。「誰一人取り残さない」を合言葉に、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17のゴールである「SDGs」。これらは、京都市でもあらゆる施策に取り入れていこうとしている、社会共通の大きな目標ですが、その達成には、一人ひとりが自分にできることに取り組んだり、共創することが必要です。

例えば、地球温暖化の問題。京都市では令和32（2050）年頃までに二酸化炭素排出量「正味ゼロ」を目標に掲げており、これは一人ひとりの小さな努力の積み重ねがあってこそ実現できるものです。

課題や目標が大きければ大きいほど、自分からは遠い話のように考えがちですが、一人ひとりが「わたし」の目線で、「自分のやっていることは何にどうつながっているのだろう」「自分にできることは何だろう」と考え、行動する。その小さなアクションが集まれば、世の中を動かしていく大きな力になります。右京区の将来ビジョンの実現は、こうした社会共通の大きな目標の達成にもつながっていきます。





「わたしたち」が描く 未来と実現のためのアクション

- ▶ 「わたし」にできること
- ▶ 「わたし」から「わたしたち」へ
- ▶ アクションを広げるために
 - まず まちを「知る」ことから始める
 - 次に わたしたちのまちや暮らしの未来を描く
 - いよいよ 未来の実現に向けたアクションを起こす



「わたし」にできること

子どもの頃、「こんな未来になったらいいなあ」「こんな仕事やくらしができればいいなあ」という夢を思い描くことは、おそらく、誰もが経験しています。

しかし、大人に近づくにつれ、だんだんと目の前にある「現実」という名の様々な課題への対応に追われるようになり、未来について考えることから遠ざかってきているのではないのでしょうか。

もちろん、今も「〇〇〇になりたい」という夢を追い、それに向けて努力を重ねている方もいらっしゃるでしょうが、まちの様子やくらしがりについて考えたり、それに向けて行動されている方となると、ぐんと少なくなるはずで

将来どんなくらしをしていきたいか、そのために右京区はどんなまちになってほしいか、一度立ち止まって、「わたし」の視点で未来を思い描いてみる。

まず、このアクションに取り組んでみませんか。そして、その未来の実現のために、ほんの一步でも、半歩でも、今の「わたし」でもできそうなことをやってみる。これだけでも、未来は確実に引き寄せることができます。

「わたし」から「わたしたち」へ

「右京区の将来ビジョン」では、「わたし」と「わたしたち」という言葉を使いました。

他の人に「わたし」が実現したい未来を語ってみる。他の人の意見や、他の人が思い描く未来を聞いてみる。すると、違いがあることが分かり、多様なものの見方があることに気がきます。一方で、違いはあれど、共通点があることも分かるはず

今、そしてこれから「わたし」が何をしたらいいか見つからないときでも、他の人が描く未来の姿との思いのつながりに気付くことがあります。

たくさんの人の思いが繋がれば、「わたし」の実現したい未来は「わたしたち」の実現したい

未来となり、たくさんの人の行動で、より一層、その実現に近づくこととなります。

「わたし」が「わたしたち」になっていくことで、右京区はよりよいまちに近づいていきます。

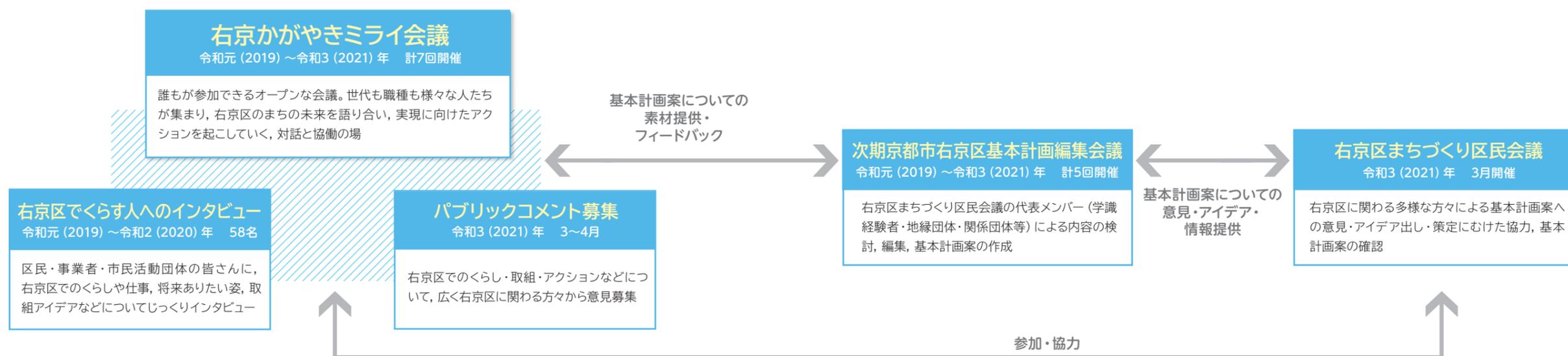
アクションを広げるために

「わたしたち」の未来を描くためには、「わたし」にとっての右京区について語り合う「対話の場」が不可欠です。重要なポイントは、他者との対話を通じて、頭の中を整理したり、新たな気づきを得たりすることです。

「どういうテーマで、誰と話し合うのか」「対話の機会が何回取れるか」によっても進め方は変わってきますが、この基本計画を参考にしながら、家族や仲間・地域の人たちと、できる範囲で、それぞれの実現したい未来のイメージや、その実現のために取り組んでみたいことを話し合ってみましょう。

右京区役所では、令和元（2019）年12月から、「右京かがやきミライ会議」（以下、「ミライ会議」といいます。）などを開催し、右京区でくらし、働いたくさんの人が「対話」を重ねながら、実現したい未来を思い描き、そのためのアクションについて考えてきました。

第2章では、ミライ会議で参加者の皆さんが語り合ってきた意見なども紹介しています。これらも参考に、「わたし」は何をどうすればよいのかを、そして、「わたし」が「わたしたち」になる過程をイメージしながら、読み進めてください。



まちを「知る」ことから始める

「こうなったらいいな」「こうありたい」という実現したい未来のイメージを描いたり語ったりする前に、「わたし」にとってこの「まち」はくらしやすいのか、どうなのか、まずそのあたりを整理してみることが大切です。そのために、まずは、まちの今とこれまでを「知る」ことから始めていきましょう。

大切にしたいのは、「わたし」の目線。生活実感から振り返ってみましょう。

そしてもう一つ、できればやってみたいのが、京都市などが公表している客観的なデータを見ることです。主観と客観の両方を重ね合わせていくことで、リアルで、かつ裏付けのある、まちやくらしの現状を知ることができます。

もちろん、未来に影響を及ぼしそうなこと、例えば、人口減少の本格化や地球温暖化の加速、新型コロナウイルス感染症の拡大といった、社会の大きな潮流の変化に目を向けていくことも大切です。

まちの今とこれまでを生活・くらし目線でまとめてみると、自分自身がどんなことに興味・関心や問題意識を持っているのかも分かり、頭の中の整理がついて、実現したい未来のイメージを思い描く足がかりになります。

1 身近な暮らしを振り返る

【主観的なもの】

生活の実感やその変化、気になった出来事などを振り返る

2 暮らしの変化をデータで見る

【客観的なもの】

「わたし」の生活実感と、まちに関連するデータを見比べる



3 今起きている大きな潮流の変化に目を向ける



4 生活・くらし目線で整理する

1 身近な暮らしを振り返る

考えるときのポイント

自分自身の身近な生活とまちとの関わりを振り返ってみる、このプロセス。

「そんなこといきなり言われても…」という方もいるかもしれませんが、こういうとき、こんなことが嬉しかった、楽しかった、辛かった、頑張ったなど、具体的な経験・エピソードを思い返してみると、意外とその時のまちの様子が見えてくるかもしれません。

同じ地域に住んでいても、そこでのくらし方、価値観は一人ひとり違います。

だからこそ、まちにくらす「わたし」の生活実感といっても、見えている景色も様々です。

自分の経験だけでなく、他の人たちの経験を重ね合わせることで、改めて気付くこと、新たに知ることもあります。自分で振り返ってみたら、次にいろんな人たちと語り合ってみましょう。

きっと、もっと様々な視点からまちやくらしを見ることができるようになるでしょう。

右京区にくらす一人としての実感、あなたにはどんなことが見えてくるのでしょうか？

ミライ会議の前に…

中学生の目線から、右京区の「今」と「未来」を考えた

中学生が右京区のまちづくりについて考え、行動するきっかけづくりの場、それが「ジュニア円卓会議」です。

令和元（2019）年度は、今回の基本計画の策定に向けて、右京区の「今」と「未来」について考えました。

交通、美化、観光、その他のカテゴリーに分かれてグループワークを実施。中学生ならではの生活実感が語られていました。



狭い道でスピードを出す車が多いよ
地元のお祭りは大切。知らない人とも顔見知りになれる
伝統を守れば外国人観光客が増えて、経済が活性化するのは
外国語での注意書きや景観に配慮したゴミ箱があればいいな

ミライ会議等でやってきたこと

この10年を振り返って、身近なところでどんな出来事があったのか、今の暮らしにどんな実感を抱いているのか、お互いに語り合い、共有しました。
そこで出された、暮らしの中の出来事や生活実感の一部を紹介します。



- ・ミライ会議では、この10年間での印象的な出来事を巨大な年表に貼っていく作業をしました。
- ・目に見えるまちの変化から肌感覚として感じている変化、駅や公園などの公共施設から近所の馴染みの店の变化まで、暮らしの中で人それぞれに感じる様々な変化が出されました。



印象的な出来事 年代不詳含む

平成23 (2011)年~平成25 (2013)年頃	平成26 (2014)年~平成28 (2016)年頃	平成29 (2017)年~令和元 (2019)年頃
京北への道路環境向上 2014:トンネル開通	嵐電・阪急のアクセス改善・リニューアル 2015:阪急西京極駅前広場整備 2016:嵐電撮影所前駅開業 2017:西院駅改修・改善	町家等の跡にコインパーキング増加 カーシェア増加
モビリティマネジメント進展 2014:市バス70号系統黒字化達成	災害での道路通行止め・停電 2017:台風によるR162通行止	
特に海外からの観光客が増加 観光客向けの店舗や宿泊施設の増加	嵐山・京北にも 2013:嵐山駅 キモノ・フォレスト	民泊増加 2018:ファーストキャビン京都・嵐山
地域の飲食店がオープン 2013:キネマキッチン, 洋食西原 2014:IKEYA	地域のお店の变化 コンビニ増加・ドラッグストア増加 2015:京北にコンビニ出店	地域の昔からの商店の閉店⇄新店・人気店が開店 (ケーキ店・銭湯・牛乳店・スーパー・パン屋) スーパー営業時間の短縮
「働き方改革」の進展 働き方への意識がさらに高まる 2012:育児・介護休業法施行	ワーク・ライフ・バランスへの関心がさらに高まる	2019:改正労働基準法施行
2012:西京極西児童館開館	2016:梅津フケノ川公園開園	子どもを支える拠点の増加 2017:西院ふれあい食堂(子ども食堂)開設 放課後等デイサービス増加
まちを楽しむ活動の進展 2011:西院ミュージックフェスティバル10周年 2012:京北サイクリングマップ作成 2013:てくてく太秦マップ完成	文化・芸術・アートの活動拠点や団体が充実 2013:ひよっこおどりの会始動 2014:嵐山昇龍苑オープン 2015:SANSA芸術の杜開始 2016:小劇場シアターウルオープン 2018:嵯峨嵐山文華館オープン 2019:福田美術館オープン けいほうくと未来コンサート開催	
	右京を舞台とした映画の公開 2014:映画「太秦ライムライト」	2019:映画「嵐電」
健康まちづくり活動の広がり サンサ健康広場の広がり	まちづくり支援制度に健康まちづくり活動が増えてきた	
様々な防犯活動の進展 2011:嵐電パトトレイン 2014頃~:学区内防犯カメラの設置・拡大	2017:太秦病院開業 2019:京都民医連中央病院移転開業	
	台風・豪雨被害拡大・回数増加, 防災活動の進展 2013:台風18号被害	大雨や台風の際に避難所が開設される学区が増えてきた 2018:台風21号で水尾地域長期停電に, 電気自動車で電気配給
まちについて考え, 話し合う場の広がり 2011:ジュニア円卓会議, 右京区まちづくり区民会議開始 2013:まちづくりキャンパス@右京開始 2019:右京かがやきミライ会議開始		
交流・連携活動の広がり 2011:太秦太鼓クラブ(現「多世代交流音楽クラブ」)結成 2014:高雄マウンテンマラソン開始 2015:岩陰竹灯籠開始		
地域メディアの広がり・充実 2012:ローカル紙 右京じかん創刊 2013:右京コミュニ=TV開設 2018:右京ファンクラブねっと開設		
地域の集う・活動する拠点 2013:MACHIKOオープン 2014:キョウノヨリミチ, 太秦古心庵オープン 2015:まちづくりコンシェルジュ設置		



・今の暮らしの「良いところ」「不満なところ」について、それぞれが思うことを出し合い、共有しました。
・「右京のまちの印象は？」
「暮らしの困り事や将来への不安は？」
くらし方によって価値観や生活実感は本当に様々。
・多彩な顔を持つ右京区には、豊富な資源があることをみんなで再認識。
一方で、暮らしにくさや将来への不安を感じることも。

生活実感

公共交通が充実し便利な生活を送れている	食料品, 生活用品を調達するスーパーやホームセンター等は充実し便利である一方, 昔からあるお店が減ってきた
道路や交通事情がよくないところがある ・歩道が狭く危険(三条通など) ・歩道や駅のバリアフリーが不十分 ・北部山間地域へのアクセスが悪い	まちがきれい・おしゃれに(西院・花園) 生産地と近く, 新鮮食材が身近で手に入る
観光地が賑わう一方で, 道路渋滞やバスに乗れないなどの生活への影響も生じている	高齢化, 介護を必要とする人の増加
名所, 観光地が多い。文化・芸術やアクティビティを楽しめる場所がある	便利な世の中, ニーズの多様化, インバウンド需要等の社会情勢に合わせ, 個人商店の生き残り戦略が必要
歴史的な文化財・古墳が身近にある	子どもが近所で遊べる場所が少ない
大学が多く, まちが若くて活気がある	学童や習い事などもあり, 外で元気に遊ぶ子どもの姿をあまり見なくなった
農林業や伝統工芸もあるが, 生計を立てる難しさ, 後継者不足。農地では獣害も	特に区南部で子育て世帯が多い, 希望する保育園に入れない人もいる, 病児保育がない
空き家や空き地が増えている	多世代のつながり・障がい者への理解が増してきたと感じるが, 多様性への理解, 不寛容さはこれからの課題
自治会・町内会の加入率低下, 担い手不足・高齢化, 地藏盆の開催が危ぶまれる	京北地域への距離感(物理的・精神的)を感じる。広い右京区だからこそ一体感を持ちにくく, 知らない場所も多い
高齢者間や新住民との関わりの希薄化	個人情報保護の徹底による, つながりにくさを感じる
単身高齢者の増, 見守り体制の充実が必要	
災害への不安増(危機意識の低下懸念も)	



また、ミライ会議の参加者以外にも、右京区でくらすいろんな方々にじっくりと思いを聴くインタビューを実施しました。

2 暮らしの変化をデータで見る

考えるときのポイント

生活実感として出てきた、リアルな暮らしの姿。でも、これだけで右京区のまちのすべてを知ることは難しくそうです。ここにはいない人たちの暮らしにも思いを馳せていく必要があります。

ちょっと上級編ですが、それを知る方法のひとつが、京都市などの行政や、調査機関などによって公表されている統計データを見ることです。

統計データは、過去・現在・(ものによっては未来)を比較できるツールです。まちの様子や人々の意識の変化を客観的に見ることができます。

統計データを見るのに慣れていない方も、ぜひ、生活実感で出てきた気になるテーマに関連する統計データを探してみましょう。テーマそのもののデータが無かったとしても、あるものの中で推測を立てることができます。

大事なことは、「なぜそうなったのか」。変化の背景にあるものを推理・想像してみましょう。

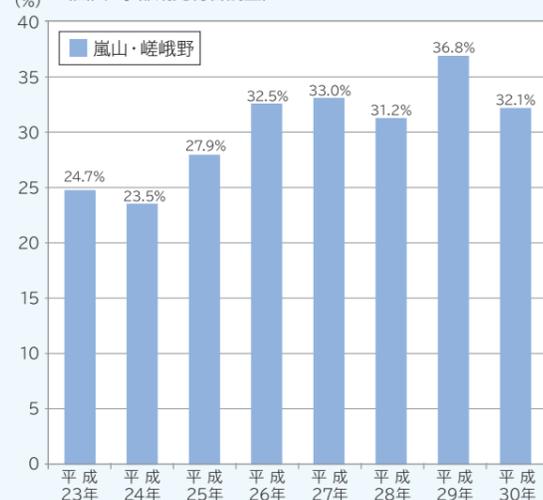
探してきたデータと自分の生活実感(経験)を重ね合わせたときに、どんなことが見えてくるでしょうか?

ミライ会議等でやってきたこと

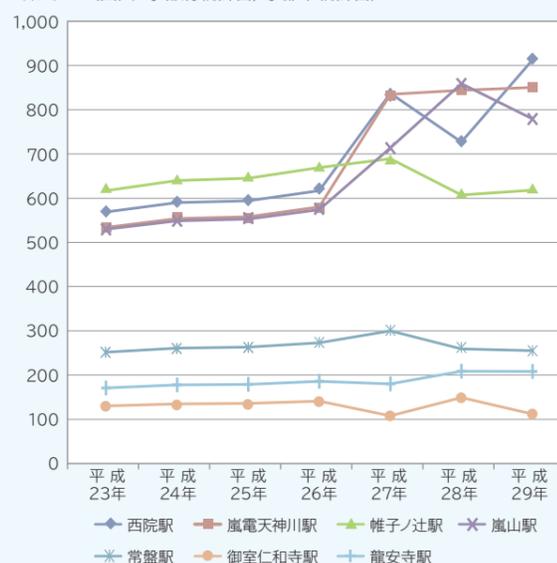
生活実感として語り合ってきた身近な暮らしの変化について、関連しそうなデータを区役所職員が集めてきてお示しました。ここでは、その一部を紹介します。

- ・ 嵐山・嵯峨野を訪れる外国人観光客の割合が上昇、嵐電では他の鉄道との接続駅(西院駅・嵐電天神川駅)と嵐山駅で乗客が増加しており、利便性が向上、観光客が増加していることが分かりました。

京都市を訪れた外国人観光客のうち、右京区内の観光地を訪問した人の割合の推移 (出典:京都観光総合調査)



京福電鉄(嵐電)各駅の乗客数の推移 (出典:京都府統計書,京都市統計書)



- ・ 小売業は事業所数が減り、売り場面積も減っていますが、1事業所あたりの面積は広がっているようで、大きな店舗は残り、小さなお店が減っていることが分かりました。比較的小さな、昔からある地元のお店が減っているのかもしれない。



- ・ 空き家の数は少し増えているだけで、たくさん増えているわけではないことが分かりました。ただ、管理されず問題が起きやすい利用予定のない「その他」の空き家が増加しているため、わたしたちが日々のくらしで気になるような「空き家」が増えているように感じられるのかもしれない。



- ・ 右京区南部の西院第一・西院第二・西京極・葛野・梅津学区では、子どもの数が増えていることが分かりました。

(人) 区南部の子ども(0~14歳)の数 (出典:国勢調査)



- ・ 高齢化が進んでいることもあり、介護を必要とする人は年々増加していることが分かりました。

(人) 介護を必要とする人の数 (出典:区政概要)



3 今起きている大きな潮流の変化に目を向ける

考えるときのポイント

データや実感だけでなく、人口減少や地球温暖化といった社会課題、企業や行政、その他の団体の役割の変化にも目を向けてみましょう。

例えば、新型コロナウイルスの感染拡大による様々な制限・自粛。この突然で急激な変化は、くらしや地域活動に様々な影響をもたらし、これまで表面化していなかった課題を浮かび上がらせた。

これらの大きな潮流の中にある「わたし」目線で、くらしや気持ちの変化を考えてみましょう。

ミライ会議等でやってきたこと

新型コロナウイルス感染拡大による自粛期間中に、オンラインでミライ会議を開催し、コロナ禍で起きているくらしや気持ちの変化について話し合いました。また、右京区役所ホームページ上のアンケートでも、「コロナで変わったわたしのくらしと気持ち」について、投稿してもらいました。そこで語られたこと、寄せられたことの一部を紹介します。

・移動する、はたらく、学ぶ、食べる、つながる
・・・くらしの中の様々な場面で変化が

- ・電車やバスを使った外出を控えるようになった
- ・ウォーキングやランニングをするようになった
- ・大学の授業がオンラインになった
- ・営業活動ができなくなった（経済的な打撃）
- ・地元飲食店のテイクアウトやデリバリーを利用した
- ・学校が休校になり、子どもが家にいる時間が長くなった
- ・テレワーク、在宅勤務になった
- ・プライベートでもオンラインツールを使うようになった
- ・自治会活動（催し）ができなくなった

・変化に対応することで生じている明暗も・・・

テレワークで
・時間の有効活用ができるようになった
・家庭と仕事との棲み分けが難しい・・・

自宅で過ごす時間の増加で
・一緒に住む家族との絆が深まった
・離れて住む家族と過ごす時間が少なくなった・・・

仕事で
・人との接触が不可欠な仕事が大変・・・
（物流、ソーシャルワーカーなど）

オンライン授業で
・その場にいらないといけない時間が減って、
授業を受けるのが楽になった
・学びの機会というより課題の作業化に・・・

・改めて自分にとって大切なことを考え、
気づききっかけに

- ・人と対面で会うこと、話すこと、つながることってやっぱり大事なんだと思った
- ・人との価値観の違いが見え、同じ価値観を求めがちな自分に気づいた
- ・家族や親しい人との付き合いを大事にしたい
- ・今まで当たり前だったものを考えるきっかけになった
「学ぶこと、教えること」
「何かを表現すること、生きるために稼ぐこと」
「何が大事な活動で、何がそうでない活動なのか」

・これからのくらし方の選択肢を広げた
・オンラインや非接触でも「できる」ことが増えた

・これから大切にしたいこと
・周りの変化にも、しなやかに対応していきたい
・価値観の違いや多様性を尊重するとともに、
変化に取り残されそうな人へ寄り添うこと
・自分が大切にしたいことを考え、くらしの中で
自分なりの正解を見つけ、選択していきたい

4 生活・くらし目線で整理する

考えるときのポイント

「わたし」の右京区でのくらしは、この10年でどのように変化してきたのか。そして今、どんなことに魅力や課題を感じているのか。まちに対する印象、興味・関心や問題意識も、多くの方が集まり、寄せ合えば、実に広い範囲にわたることが分かります。

ミライ会議等でやってきたこと

語り合ってきた出来事や生活実感、統計データやコロナ禍での変化をもとに、まちの現状をまとめてみると、次の9つの分野に整理できました。これがミライ会議で「わたし」と「わたしたち」の未来を描いていく下地となりました。

1 移動する（観光）



2 食べる・買う



3 稼ぐ・商う



4 はたらく



5 育つ・育てる



6 学ぶ・遊ぶ・楽しむ



7 健康にくらす



8 身を守る・支え合う



9 つながる・交わる・集う



ミライ会議でまとめた、まちの現状と目指す未来は

28ページへ

わたしたちのまちやくらしの未来を描く

「あなたが実現したい未来を描いてみましょう」と言われたら、どうやって考えますか？

未来の描き方の一つには、「今の課題は何だろう」「乗り越えるには何が必要だろう」「その先にどんな未来が待っているだろう」といったように、「今」を起点にする考え方があります。

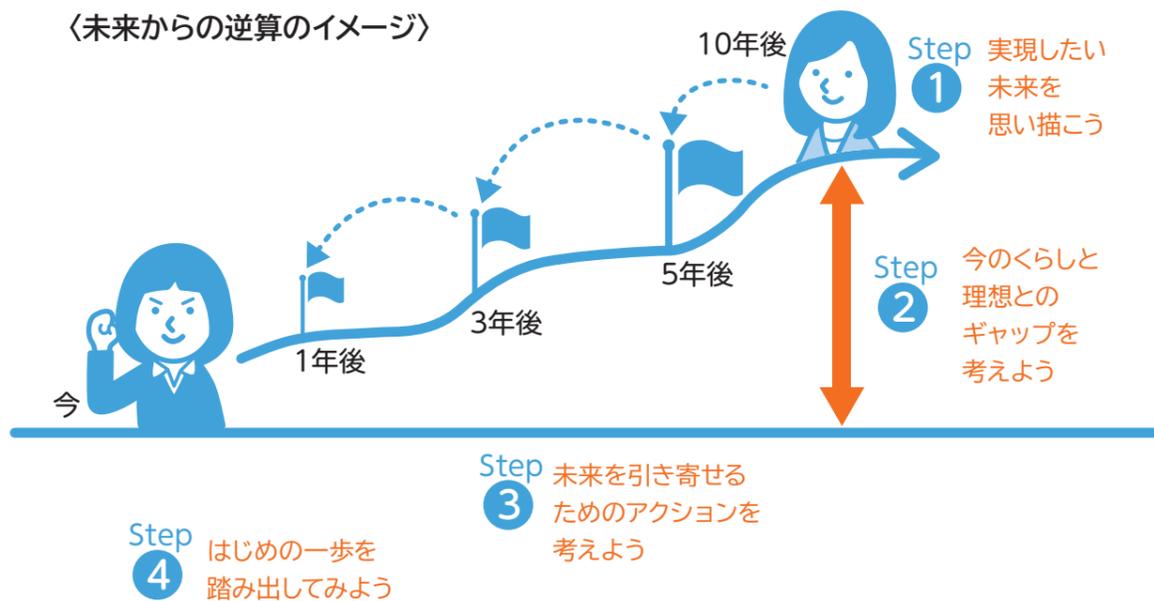
もう一つは、「未来」を起点にした考え方です。つまり、今あるものや無いものに捉われず、「こうありたい」という理想の未来を思い描き、その未来を引き寄せるために今必要なアクションを考える未来からの逆算です（バックキャストिंगといいます）。

未来のことは誰にも分かりません。

そして、それを描くのは「わたし」です。

そうであれば、現実的な課題はいったん横に置いて、自分が本当に「こうありたい」と思い願うものをイメージしたほうが、明るく楽しい未来が描けます。「無いならつくればいい」「とりあえずやってみよう」という前向きなアクションが生まれてくるかもしれません。

ここからは、ミライ会議のプロセスとも重ね合わせながら、未来からの逆算の考え方を紹介していきます。これを参考にしながら、ぜひ一緒にトライしてみましょう。



考えるときのポイント

「誰もが安心していきいきとくらせるまち」。誰もが「そだよね」と思える理想のまちの姿です。では、果たして、そのまちにはどんな人がいて、くらす人たちがどんな意識や行動をしていて、どんなくらしをしているのでしょうか？

このスマートな言葉からはそういう具体的なイメージがあまり伝わってきません。

まずは、未来の様子の具体的なイメージから思い描くことが大切です。「まち」は「くらしの器」ですから、「こんなくらしがしたい」という理想のくらしのイメージから考えることがポイントです。

ミライ会議等でやってきたこと

ミライ会議でも、整理した9つの分野に沿って、「理想のくらしの姿」「理想のまちの姿」「くらす人たちの意識・行動」について、一人ひとりが「わたし」目線で考えながら、「わたしたち」が目指したい未来について、多くの人たちと語り合いました。

あくまでミライ会議に参加された方々が描いた姿をまとめたものですが、この中に皆さんが共感できるものはあるでしょうか？

1 移動する（観光）



【まちの現状】 公共交通機関による利便性の向上などにより、移動しやすい右京区。しかし、京北地域など、地域によっては移動に不便があり、また、コロナ禍による移動制限や感染予防対策のため、公共交通機関での外出がしづらくなり、徒歩やマイカーで移動することが多くなりました。一方、観光客が多い季節などは、日常生活での移動に支障が生じています。

【目指す未来】

くらす人たちの意識・行動	理想のくらしの姿	理想のまちの姿
<ul style="list-style-type: none"> 自分も地域の足を支える一員として、公共交通機関を積極的に使うようになっている。 障害のある人やベビーカーを押す人などのことに気を配れるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人たちが車よりも公共交通機関を積極的に使うようになっている。 駅や道路のバリアフリー化が進むとともに、利用する人たちの心のバリアフリー化も進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の足をみんなで支えることによって、公共交通機関が維持・充実されるという良い循環が生まれるまちになっている。 地域住民、通勤・通学者、観光客、障害のある人など、それぞれにとって利便性が高まっている。

まちにくらす多様な人たち（登場人物）

- 区内の市街地や山間地域でくらす人、区外からの通勤・通学者、観光客
- 移動に不自由のある人

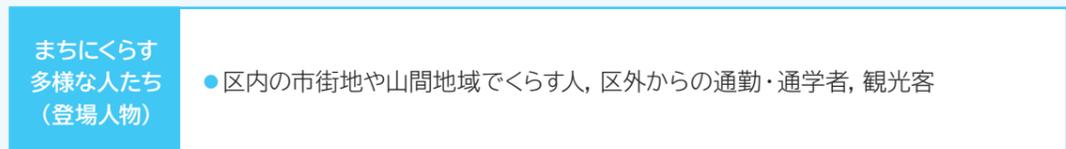
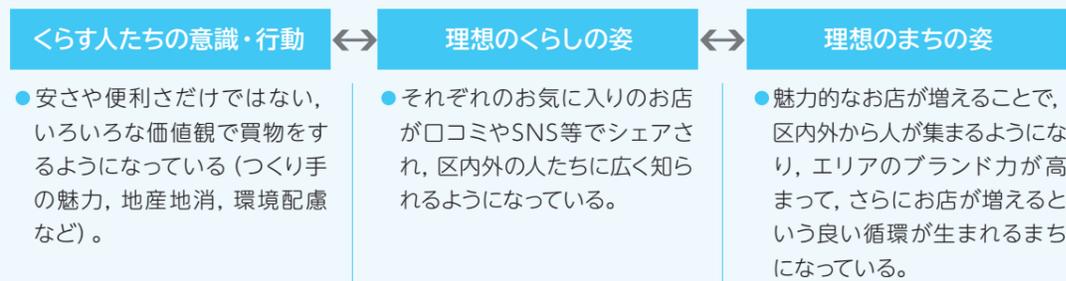
ミライ会議等でやってきたこと

2 食べる・買う



[まちの現状] 人気店や魅力的なお店が増えてきたエリアがある一方、昔ながらのお店や個人経営のお店、地元資本のお店は閉店が目立つようになってきています。店舗の大型化や営業時間の短縮などの変化も見られます。さらに、コロナ禍による客数減少などを背景に、閉店・休業や営業時間の短縮を余儀なくされているお店もありますが、テイクアウトなどの展開により、お店と利用者が新たに出会う機会も増えています。

[目指す未来]

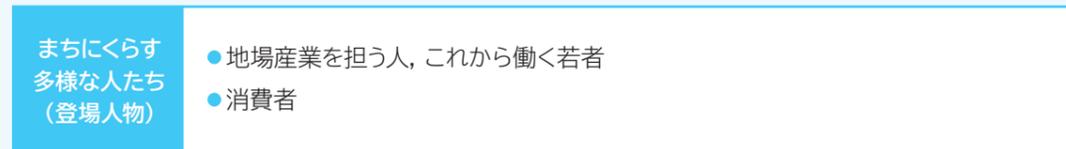
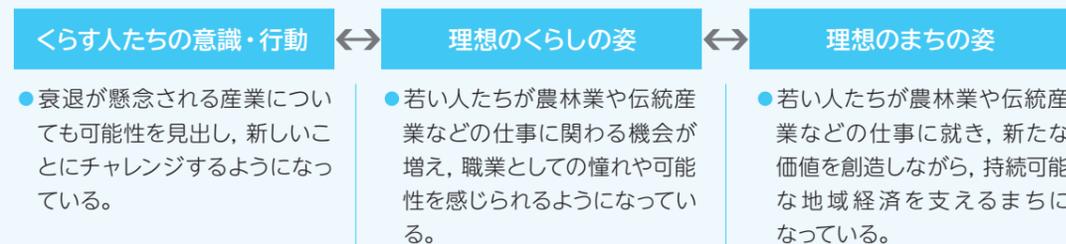


3 稼ぐ・商う



[まちの現状] これまで右京区で盛んだった農林業や伝統産業、個人経営のお店は、消費者ニーズの多様化により、生き残りのための戦略が求められています。コロナ禍による影響が大きいところでは、営業ができない、働けないなど、稼ぐことが困難な状況も生まれています。

[目指す未来]

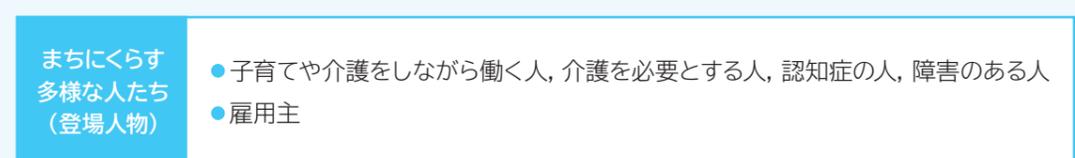
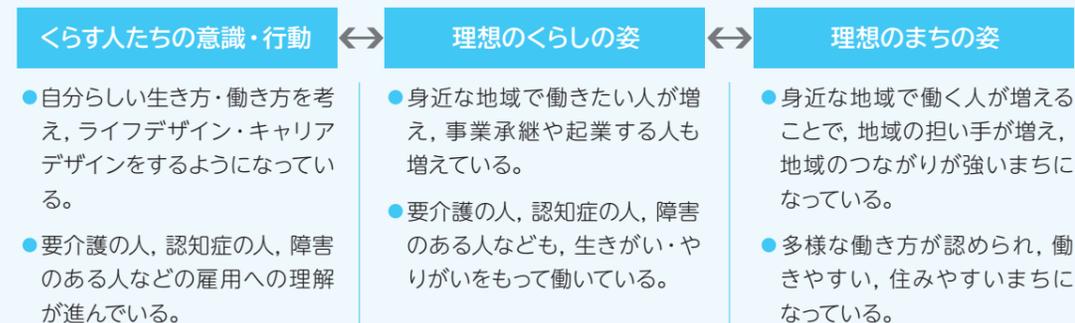


4 はたらく



[まちの現状] ライフスタイルの多様化、女性や高齢者の就業率の向上、スキルやキャリアに対する意識の高まり、コロナ禍を契機としたテレワークの普及など、「はたらき方」を取り巻く環境が変化しています。一人ひとりが輝ける、多様なはたらき方の探求が進み、社会全体での対応が求められています。

[目指す未来]

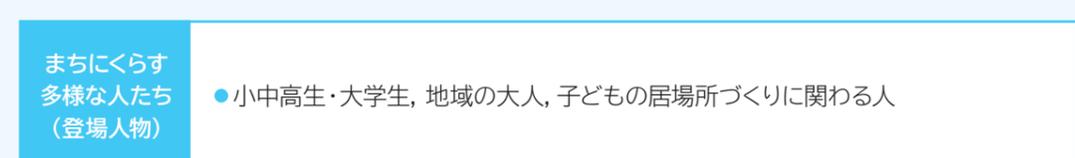
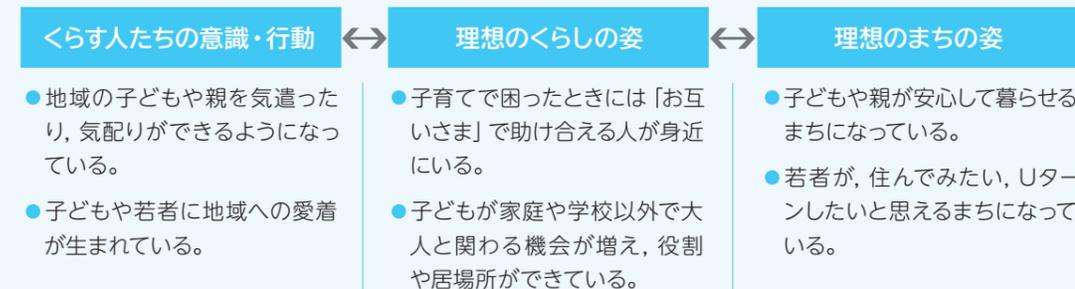


5 育つ・育てる



[まちの現状] 一部の地域では子どもが増えており、子育て環境の充実が求められています。子育てを支える拠点や活動が広がっていますが、遊び方の変化や、コロナ禍、家庭の状況など、子どもを取り巻く環境の変化への対応が求められています。

[目指す未来]



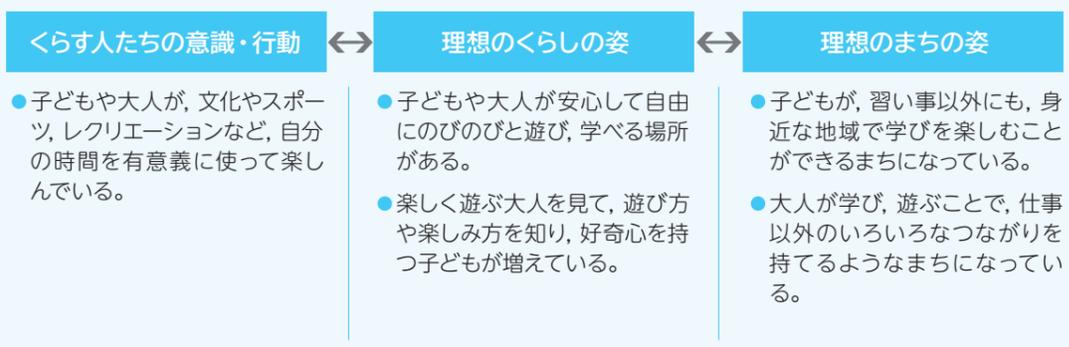
ミライ会議等でやってきたこと

6 学ぶ・遊ぶ・楽しむ



【まちの現状】 右京区は、身近なところで歴史や文化を感じることができる環境であり、区民が文化芸術に親しんだり、学びを楽しむ活動が広がっています。一方で、そうした活動を知らないという声もあるほか、コロナ禍により制限が生じており、活動や参加方法に工夫が求められています。

【目指す未来】



まちにくらす多様な人たち (登場人物)

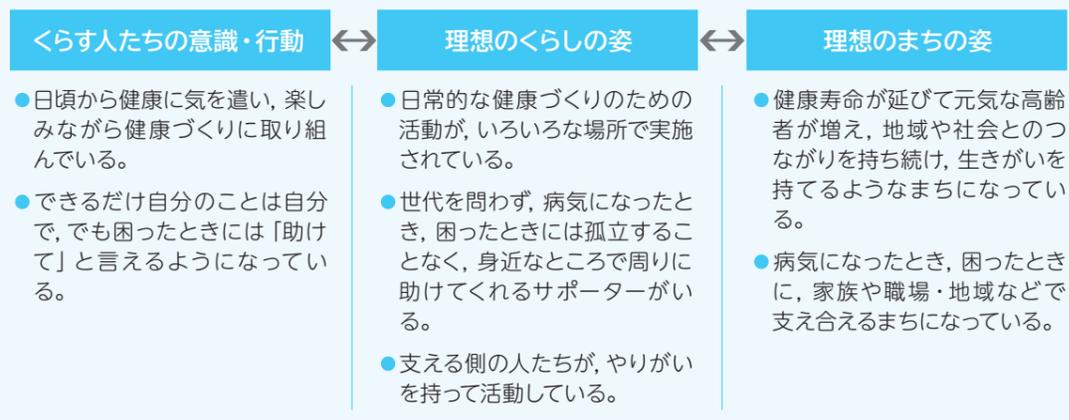
- 趣味でいろいろな活動をしている人
- 子どもの遊びや学びの場を提供している人

7 健康にくらす



【まちの現状】 高齢化にともない、介護を必要とする人が増えており、今後、さらに増えることが予想されます。介護予防の観点から、健康づくりの活動が広がってきたように、区民一人ひとりが健康にくらすためのライフスタイルの実現、コロナ禍による新しい生活様式への対応、地域での健康づくり活動の充実が求められています。

【目指す未来】



まちにくらす多様な人たち (登場人物)

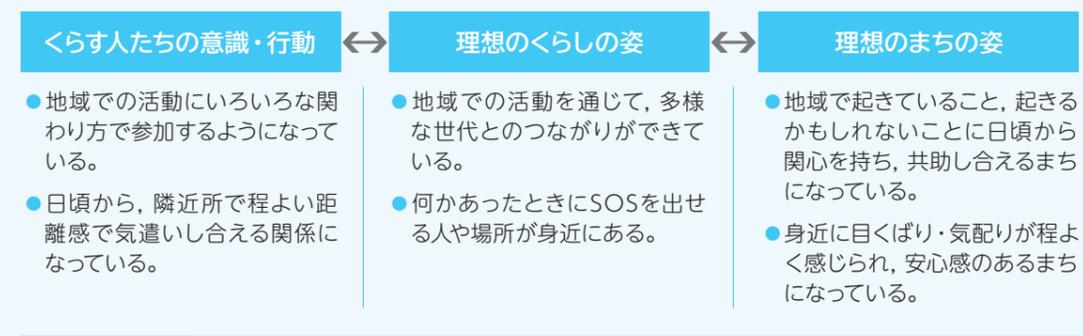
- 加齢により心身が衰えた(フレイル)状態にある人、介護を必要とする人、認知症の人、障害のある人
- 家族や福祉施設等で働く人など周りでサポートする人

8 身を守る・支え合う



【まちの現状】 頻発する自然災害により、防災意識が高まり、地域の自主防災活動が広がっていますが、さらなる充実が求められています。しかし、自治会などの地域コミュニティは、高齢化や担い手不足などの課題があり、特にコロナ禍においては、オンラインを活用するなど、集まらずにつなぐことができる地域活動の方法が求められています。

【目指す未来】



まちにくらす多様な人たち (登場人物)

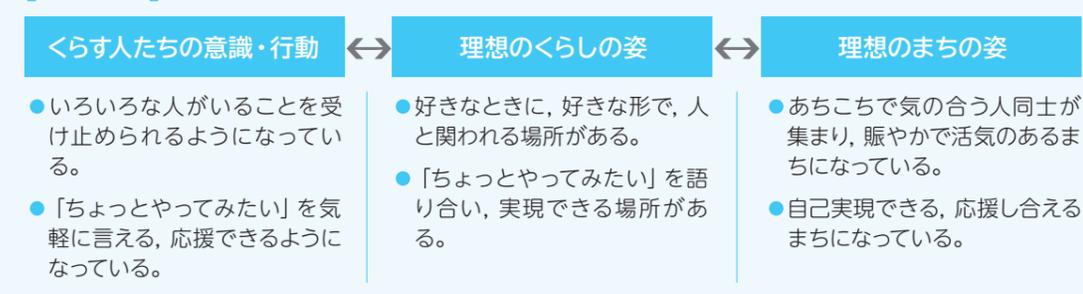
- 地域の防災活動や自治会活動をしている人
- 地域でのつながりが少ない人

9 つながる・交わる・集う



【まちの現状】 居場所や活動の拠点が多様に広がってきたことで、住民の相互理解や情報共有などのつながりが生まれています。また、コロナ禍では、集うことの大切さを再認識し、オンラインなどの活用も進んでいますが、いろいろな人が幅広く参加できる場づくりや方法が求められています。

【目指す未来】



まちにくらす多様な人たち (登場人物)

- 新しい活動を始めようとする人
- 地域でのつながりが少ない人

いよいよ

未来の実現に向けたアクションを起こす

目指したい未来が描けたら、次はいよいよ、どのような「アクション」を起こしていくかを考えていきます。やりたいことやできることから考えるより、次のStepを踏むことで、効果的なアクションが見つかります。

考えるときのポイント

アクションというと、なんだか大変なことに聞こえますが、未来の実現に少しでも寄与できそうなことを「わたし」なりに、「わたし」のできる範囲で取り組んでみることです。

アクションには、日々の暮らし方やちょっとした行動を変えてみることから、何らかの活動グループをつくって事業を行うことまで、実に幅広い形があります。そして、そのどれにも、未来の実現に向けて大きな価値があります。

ここで紹介したアクションを考える4Stepは、一人で取り組むだけでなく、他の人と話し合いながら、手順を進んだり戻ったりしながらやってみるのも効果的です。他の人と話をしているうちに、実現したい未来のイメージがもっと膨らんでくるかもしれませんし、一緒にアクションに取り組む仲間を見つけることにつながるかもしれません。

アクションを起こすときは、いきなり大きなことではなく、まず、未来を引き寄せるのに少しでも効果がありそうなことから、はじめの一步を踏み出してみましょう。そこから次につながるきっかけやヒントを見つけてみてください。

〈未来からの逆算のワークシート〉

1
実現したい未来を思い描こう

Step①

わたしは10年後、どんな暮らしをしたいだろう？

「なぜそう思うのか」個人の経験などをもとに関心事を掘り下げよう

WHY?

実現したい未来を描こう

1年後 3年後 5年後 10年後

今

あなたの未来のありたい姿は？

2
今の暮らしと理想とのギャップを考えよう

Step②

「ありたい姿」はなぜ今できていないのかな？

何があれば理想に近づけるかな？

自分の周りの人や未来の実現に関係ありそうな人たちの話も聞いてみよう！

今の暮らしと理想とのギャップを考えよう！

1年後 3年後 5年後 10年後

今

あなたの理想と今にはどんなギャップがありそう？

3
未来を引き寄せるためのアクションを考えよう

Step③

わたしならどんなアクションをしたい(できる)かな？

- 個人でできること
- 誰かと一緒にやること
- 日々の暮らしの中でできること
- ちょっと背伸びしてやってみたいこと

いろんな形があるよね 一つに絞らなくていいよ

未来を引き寄せるためのアクションを考えよう！

1年後 3年後 5年後 10年後

今

あなたはどんなアクションをしたい？

4
はじめの一步を踏み出してみよう

Step④

わたしのアクションにつなげるために

- 興味ある活動に参加してみる
- 仲間を探してみる
- 自分で小さくはじめてみる
- まず誰かに話してみる

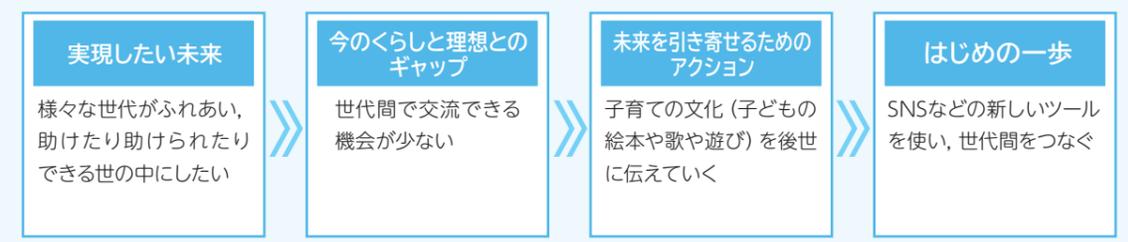
はじめの一步を踏み出してみよう！

あなたは「はじめの一步」で何をする？

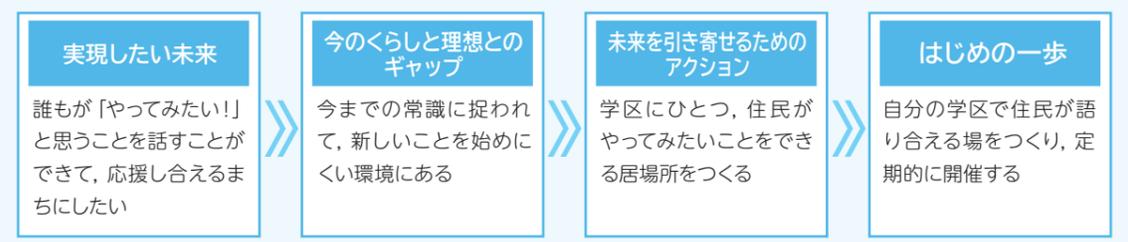
ミライ会議等でやってきたこと

33~34ページのワークシートを活用しながら、「実現したい未来」から逆算して「はじめの一步」まで、一人ひとりじっくりと考えてきました。ここではその中の例を紹介します。日々の行動を少し変えてみるものから、グループで取り組む企画まで、参加された方それぞれの「わたし」らしさが反映されています。

9 つながる・交わる・集う 個人でのアクション



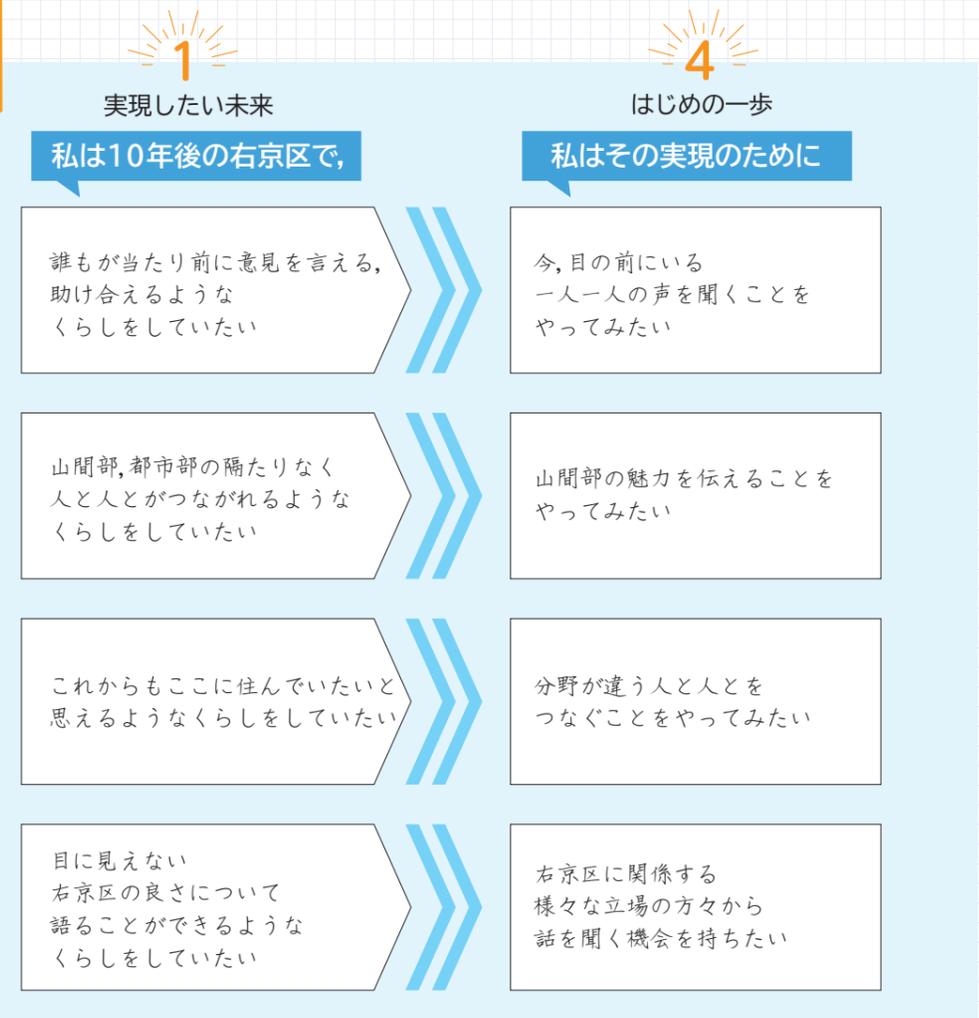
5 育つ・育てる 仲間・グループでのアクション



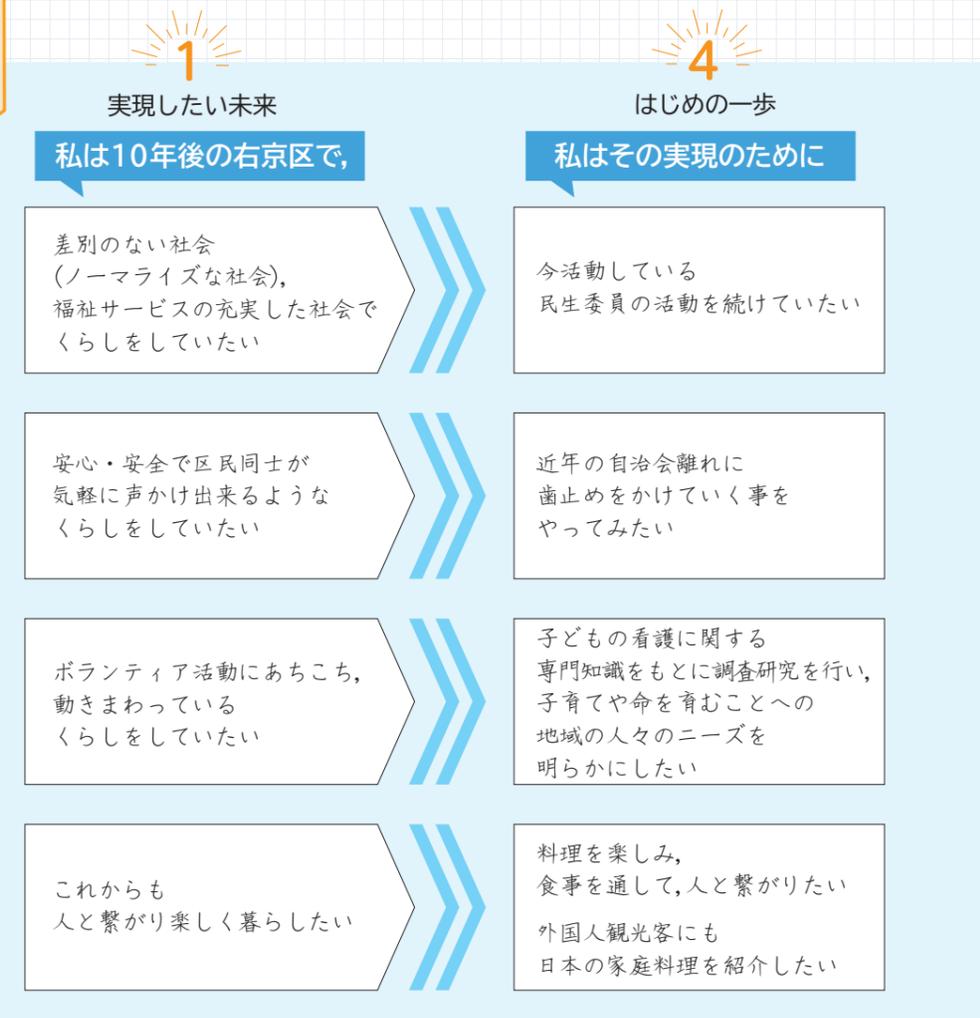
パブリックコメントの紹介

令和3(2021)年3月に、基本計画案を公表し、パブリックコメントを募集しました。多くの方々からご意見をいただき、また、「実現したい未来」と「はじめの一步」についてもお寄せいただきました。その中から一部を紹介します。
 ※パブリックコメントでは、Step1・4のみ回答していただいています。

「多様性」を力に変えていく



「お互いさま」で支え合っていく



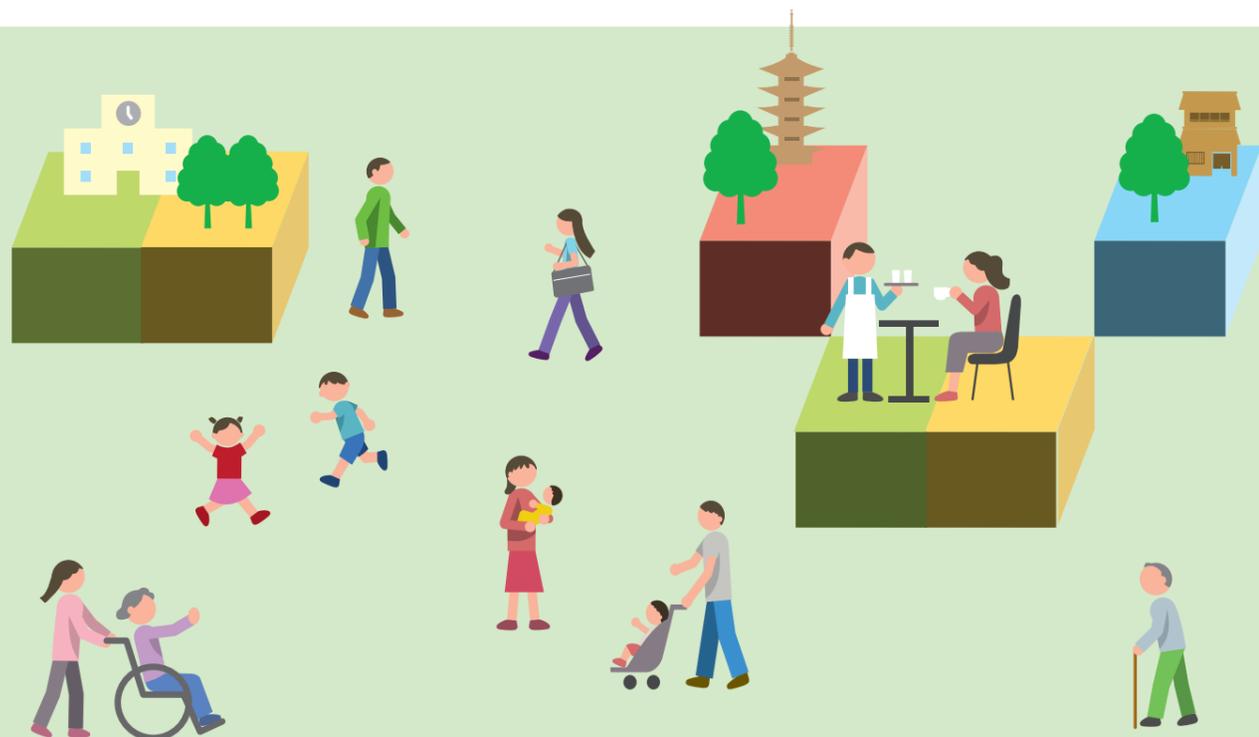
パブリックコメントの紹介

「くらしにくさ」
を伸びしろに
する

1 実現したい未来	4 はじめの一步
私は10年後の右京区で、	私はその実現のために
子ども達が伸び伸びと 安心して生活している姿を 見つめるような くらしをしていたい	(小)学校のお手伝いを やってみたい
子育てをしながらいきいきと働く (子どもと一緒に習い事したり したい)ような くらしをしていたい	子育てについて 相談できる人を 身近にみつけることを やってみたい
安心して出歩ける(ペットとも) ようなくらしをしていたい	歩きやすい町づくりを やってみたい
誰もが暮らしやすく感じるような くらしをしていたい	身体に不自由がある人には 自分から声をかける、 観光客にも優しく接することを やってみたい
高齢になっても、 子どもがいなくても生活しやすい (買い物, 病院, 図書館, 公共交通) くらしをしていたい	右京区の自然, 四季を楽しむ丁寧な暮らしを やってみたい
右京区の皆さんが 寂しい思いをしないくらしを していたい	右京区に住んでいることを 誇りに思うよう、 歴史や文化を学び、 後世に伝える取組をやってみたい

「やってみよう」
を応援する、
チャレンジする

1 実現したい未来	4 はじめの一步
私は10年後の右京区で、	私はその実現のために
元気でいたい	健康体操とプールを続けたい
京都市のモデルになるような くらしをしていたい	7日に1度は、 行動中に自然を守る事、 地球にやさしい事をやってみたい
食べる, 遊ぶ, 観るために 右京にくるような くらしをしていたい	飲食店, レジャー, 観光場所の発掘をやってみたい
何かに取り組みたいと思った時に すぐに仲間を見つけて 一緒に進められるような くらしをしていたい	人材バンクのような、 いろんな人を集めたり、 人と人をつなげるような 仕事をやってみたい
常に何かに挑戦できるような くらしをしていたい	常に目標や何か壁を持ちたい
自分のやりたいことを 気軽に話せる、 誰かのやりたいことを 気軽に応援する くらしをしていたい	やりたいことを 気軽に話し合えるような 対話の場に参加することを やってみたい



「わたし」と「わたしたち」を つなぎ、支える、 右京区役所や市役所のアクション

- ▶ 未来の実現に向けたアクション
- ▶ 制度・仕組みの具体例



未来の実現に向けたアクション

右京区が目指す将来ビジョンの実現のためには、まず、一人でも多くの人の意識や行動が少しずつ変わることがスタートとなります。ここまで、その理想的なプロセスを紹介してきました。

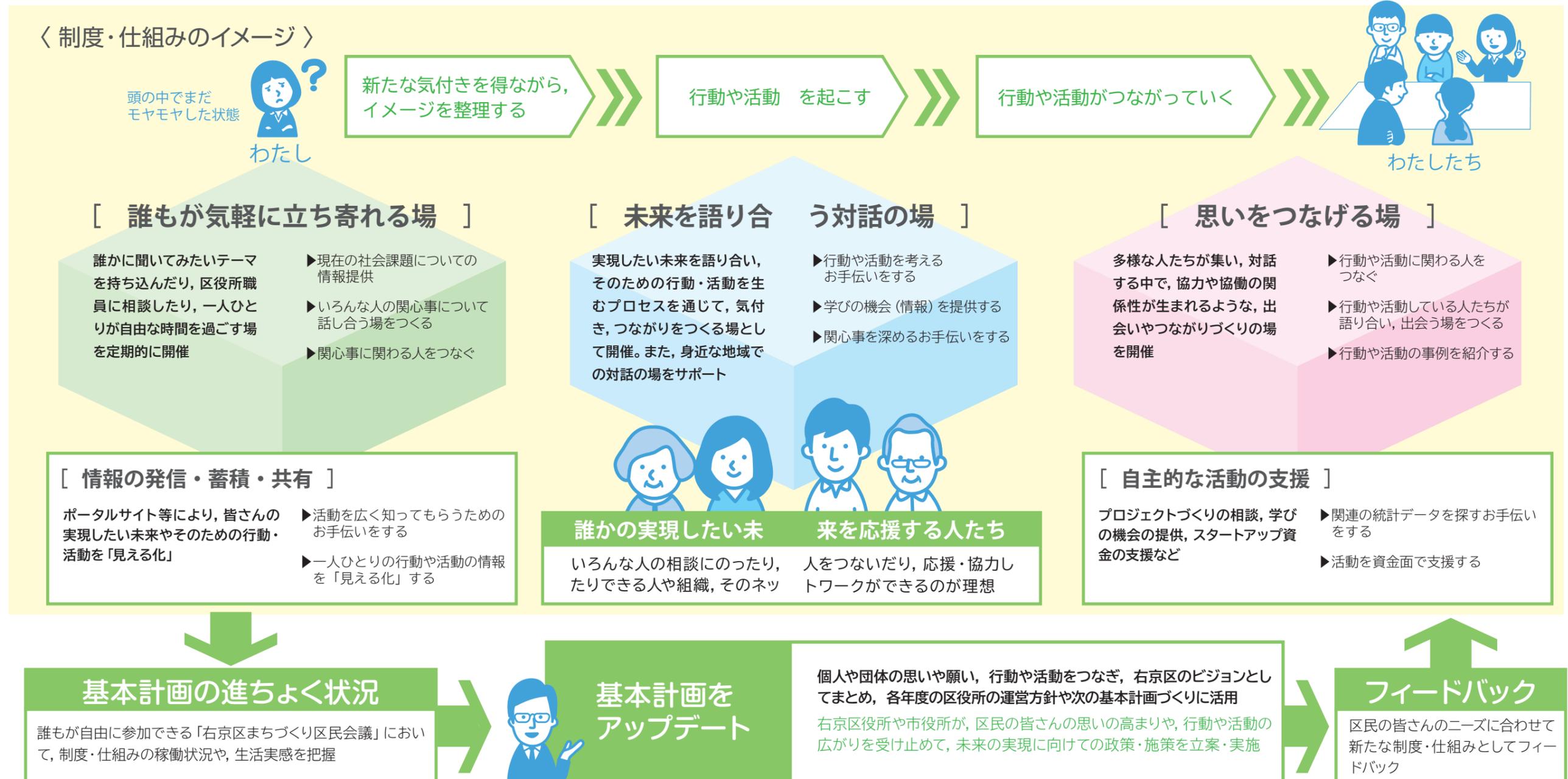
そして、「わたし」の思いや願い、そこから生まれる行動や活動がつながって、「わたし」が「わたしたち」になっていくことで、右京区というまちを良くすることにつながっていくのだと考えます。

この「手引き」役である基本計画を活用し、区民の皆さん一人ひとりの頭の中でモヤモヤしている未来のまちとくらしの姿や、そこに辿り着くための道筋などのイメージを整理するお手伝いをしていきます。そして、皆さんの思いや願いをしっかりと受け止めていくこと、そこから生まれる皆さんの行動や活動を後押しし、他の区民の皆さんや未来

の実現のために力になってくれる人につないでいくことが、右京区役所や市役所の重要な役割だと考えています。

これらの役割を担うため、職員が日頃の業務で区民の皆さんと接する中で、相談をお聴きすることはもちろん、あらゆる機会を通じて様々な声に耳を傾け、右京区役所や市役所で情報を整理、共有します。そして、区民の皆さんに有用な「制度・仕組み」を構築していきます。また、病気や障害のある方や文化背景の異なる方、家庭の事情がある方や仕事や学業で忙しい方など、制約のある方にも活用しやすいような制度・仕組みづくりに努めます。

そして、区民の皆さんの中から、一人ひとりの行動や活動を支えることができる人を増やしていけるよう、右京区役所・職員も成長しながら共に歩みつつ、まちについて考える、まちに関わる人の裾野を広げていきます。



制度・仕組みの具体例

41～42ページでお示した「制度・仕組み」のうち、
右京区役所で令和3（2021）年度から取り組んでいるものを紹介します。

[誰もが気軽に立ち寄れる場]

MACHIKOカフェ

コーヒーを片手にリラックスしながら、自由な時間を過ごせる場。
誰かと話すのも自由、くつろぐのも自由。あなた自身のスタイルで、過ごし方を見つけてください。（隔月開催）



[未来を語り合

右京コトハ

世代もお仕事も考え方も違
くらしについて語り合う場。
右京のまちをもっと知り
変えてみたい方、いろん
なうぞお越してください。（令和



う対話の場]

ジメテラス

う人たちが集まって、まちや
たい方、くらし方をちょっと
人とつながりたい方は、ど
3年12月まで毎月開催）



[思いをつなげる場]

右京区まちづくり区民会議

自治連合会、まちづくり活動に取り組んでいる団体、大学、
企業等、様々な方が一堂に会し、活動を紹介・報告しなが
ら交流する出会いの場。
一般の方もご参加いただけます。（令和4年3月頃開催）



[情報の発信・蓄積・共有]



<https://ukyotan.com/>



誰かの実現したい未 来を応援する人たち

[自主的な活動の支援]
まちづくり支援制度



～編集後記～

この冊子を編集後記までお読みいただき、ありがとうございます。
ご覧いただくと、「みんなでつくる右京」は、行政による通常の計画とは違うことができると思います。何が違うのか？それは「誰かにやってもらう」ことだけでなく、「わたしにできる」ことをつなぎ合わせる重要性を強調したからです。これが、うまく皆さまに伝わり、活動の参考になればと願っています。様々に尽力をいただいた方々や、編集委員にお礼を申し上げます。
(編集長 土井 勉)

本計画の策定に当たり、ミライ会議に参加された、学生、社会人、主婦など様々な分野の方々からは斬新なアイデアを、また、右京区でこれまでからまちづくり活動に取り組んでこられた方々からは熱い思いを寄せていただきました。団らんのひととき読んで、見て、語り合える、区民の皆さんに夢と希望を持っていただける楽しい冊子が完成したと思います。
(副編集長 高岡 宏行)

右京にゆかりある方々が思い描いた「右京でのわたしのミライ」。実現への「コトハジメ」の一步をみんなでサポートする計画です。あなたのミライもぜひ聞かせてください！
(委員)

本計画を読んだとき、ワクワクと感動が止まりませんでした。たくさんの人の思いや願いが詰まっています。言葉に出せば未来が変わる。みんなが動けばどんなことでも実現する。そんな願いを込めています。
(委員)

お寄せいただいたパブリックコメントの数に関心度の高さを感じ、感謝いたします。一つずつ拝読しました。従来と異なるスタイルの本計画への予想以上の評価に嬉しく思います。
(委員)

最後までお読みいただきありがとうございます。今、心に残っておられる事をきっかけに、どうぞ、「私も何かやってみよう」とはじめの一步を踏み出してみてください。
(委員)

[次期京都市右京区基本計画編集会議編集委員]

◇…令和元年度委員 ○…令和2年度委員 □…令和3年度委員 ※役職は就任期間未定

編集長 土井 勉 一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長

副編集長 高岡 宏行 右京区自治会連合会 会長

委員 石田 正夫 右京区自治会連合会 副会長 ◇

射場 和子 右京区社会福祉協議会 副会長

岡田 淳子 京都市児童館学童連盟右京ブロック施設長会幹事 梅津北児童館館長

折居 弘一 右京区自治会連合会 副会長

岡本 洋志 京北自治振興会 会長 ○□

久保 敏隆 京北自治振興会 会長 ◇

坂口 博翁 右京区民文化普及会 会長

鈴木 理夫 京福電気鉄道株式会社(嵐電) 沿線創造事業部 部長

鈴木 義康 右京区自治会連合会 副会長

高野 拓樹 京都光華女子大学・同短期大学部キャリア形成学部 准教授
京都大学学際融合教育研究推進センター 特任准教授

田沢 直 京都中小企業家同友会右京支部 支部長 ◇○

高橋 涼介 花園大学文学部日本史学科4回生 □

竹村 泰造 京都中小企業家同友会右京支部 支部長 □

徳丸 國廣 特定非営利活動法人フロンティア協会 代表理事

中川恵美子 右京区地域女性連合会 会長

永橋 爲介 立命館大学産業社会学部 教授

新妻 人平 京都市公共デザイン研究所

松田 玲子 右京区はぐくみネットワーク実行委員会 世話役

山田 大地 右京ファンクラブねっと運営委員会 委員

山本 直樹 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学芸術学部 教授 ○

脇田 邦夫 右京区自治会連合会 副会長 ○□

吉田 咲子 京都光華女子大学・同短期大学部キャリア形成学部 准教授 ◇
地域連携推進センター センター長

～策定までのあゆみ～

次期京都市右京区基本計画編集会議

第1回 基本計画の方向性について 令和元年9月19日

第2回 基本計画骨子案について 令和2年2月27日

第3回 基本計画素案について 令和2年11月4日

第4回 基本計画案とパブリックコメントについて
令和2年12月24日

第5回 基本計画の策定について 令和3年6月30日

区民インタビュー

〈実施期間 令和元年9月～令和2年1月〉
パラアスリート、介護職従事者、商店街組合員、農業者、僧侶、大学生、主婦など、58名の区民の方から「まちに対する思い」をお聴きしました。

パブリックコメント募集

〈実施期間 令和3年3月15日～4月30日〉
126名の方から、380件の御意見をお寄せいただきました。

右京かがやきミライ会議

・ウォームアップステージ 令和元年12月8日
年表で振り返る右京、右京区の10年後

・仁和寺2Daysステージ 令和2年1月18・19日
実現したい未来を考える

・つながるステージ 令和2年6月7日
コロナで変わったわたしの暮らしと気持ち

・えがくステージ 令和2年7月19日
未来でやってみたいことは何か

・ふみだすステージ 令和2年8月29日
自分の立ち位置の確認とはじめの一步

・つむぐステージ 令和2年12月6日
未来を引き寄せるためのアクション

・ふりむくステージ 令和3年1月24日
やってみたいこと、共感を得るためにできること

その他、20回開催したミニトークセッションを加え、延べ249名の方に御参加いただきました。



発行日 令和3(2021)年8月

京都市右京区役所地域力推進室

〒616-8511 京都市右京区太秦下刑部町12

電話 075-354-6466

FAX 075-872-5048

<https://www.city.kyoto.lg.jp/ukyo/>

京都市印刷物 第033106号